樽ものがたりフローリング施工説明書

この度は樽ものがたり商品をご購入していただき誠にありがとうございます。本商品はウイスキー樽を再生しフローリングとして生まれ変わりました。本商品には樽材特有の染み跡や釘跡、更に、柾目材に現れる虎斑など、ウイスキー樽再生無垢材の特徴を備えております。

そのため、一般の合板床材とは異なり、空気中の水分を吸収又は放出する働きがあります。その結果として『膨張』『収縮』などが生じ、施工状況によってはフローリングの突き上げや反り等の不都合を引き起こす場合もあります。良い仕上がりにつなげるために、下記の要領に則って施工してください。

梱包内容物
ウイスキー樽再生無垢集成床：１５０mm幅６枚（0.5坪）
スペーサー：スペーサー用としてＰＰバンドを同封
施工説明書：梱包内に同封

施工厳禁事項

※床暖房にはご使用できません。
※コンクリート面への直張りはできません。

無垢集成フローリング施工説明書

フローリング施工上のご注意

■ フローリングは十分に人工乾燥を行っていますが、含水率は輸送中や保管中にも変化しますので事前に現場の湿度に馴染ませてください。また、使用前の保管や施工時に、商品が湿気の多い場所に長く置かれたり、雨などがかかったりしないようにご注意ください。（後日、貼り上げ面が持ち上がったり、隙間が開いたりする原因になります）

■ 床材の施工にあたっては、床下の換気や下地材の品質と下地組みの適正が、床鳴りや耐久性や仕上がり面を左右しますので、防湿処理や乾燥材を使用してください。

■ 加工板は含水率の変化に応じて各々が膨張、収縮できるように隙間を空けて施工してください。

■ 釘は防蝕性に優れ、保持力のあるもので仕上がりに影響を及ぼさないものをご使用ください。

【合板捨て貼り工法】

施工前に確認

■ 雨の降りこみ等により、下地材が濡れた状態での施工はやめてください。目隙・変形・床鳴り等の原因となります。

■ 換気口は充分ですか（建築基準法施工例：外壁の床壁部に長さ5m以下ごとに300㎠以上の換気口設置）

※ 床下の換気が充分でない場合、施工後に『暴れ』『突き上げ』『床鳴り』が発生する恐れがあります。

①下地施工

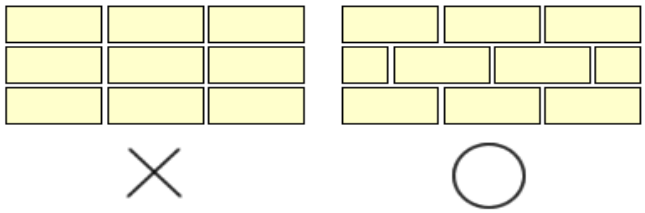
■ 大引は90mm角以上の乾燥材を使用し、間隔は909mmピッチとしてください。

■ 根太は45mm角以上の乾燥材を使用し、プレーナーで厚みを揃え303mmピッチで施工してください。

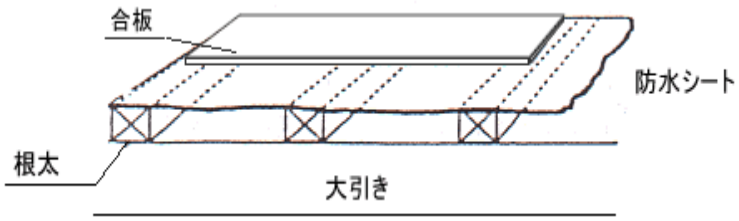
※乾燥材の目安《含水率20％以下》
＊乾燥材を使用しないと施工後の根太が乾燥し、捩れたり、痩せたりして踏み鳴りの原因となる場合があります。
＊根太の厚みが一定でないと根太高さに差が生じ、踏み鳴りの原因になります。

■ 無垢ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞの施工の際は、必ず厚さ12㎜以上の耐水合板を捨て張りしてください。

施工は3尺ずらしとし、接合部に2㎜程度の隙間を設けてください。



なお、床下の風通しを良くし湿気がこもらないようにしてください。湿気が多い場合は0．1㎜以上の防水シートを根太と合板の間に敷き込んで施工してください。



■ 床上に重量物を置く場合は根太間隔を狭くするなどの地下の補強を行ってください。

②仮並べ

■ 天然木ですので、色合いや木目が同一のものはありません。施工後の色調や木目の偏りがないようにあらかじめ板並べを行い、バランスよく施工してください。

※極端に色柄の異なったものがありましたら、必ず施工前に御購入先までご連絡くださいますようお願い致します。《施工後の商品交換は出来かねますので、ご了承ください》

※無垢ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞは合板基材の複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞに比べ吸放出による寸法変化が大きく、また、施工時の気候、季節の影響や地域性もありますので、施工前に開梱し、施工場所の雰囲気になじませてから施工してください。

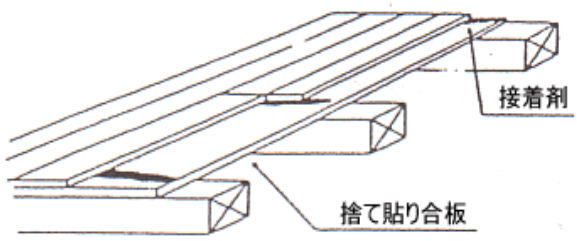
③割付

■ 下地合板のジョイント部と無垢ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞのジョイント部が重ならないように割付を行ってください。

■ 木口部のジョイント部が根太上にくるように割付を行ってください。

④下地への固定

■ 下地の固定は接着剤と釘を併用し、接着剤は「一液性ウレタンボンド」をご使用ください。

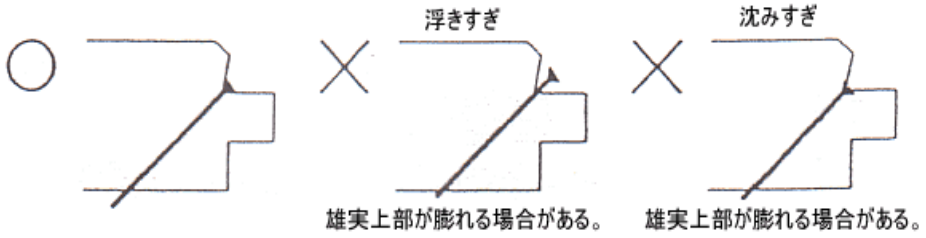


釘打ち

■ 無垢ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞの雄実部に直接釘打ちすると実部が欠けたり割れたりする場合がありますので、予めドリルで直径2mm程度の導き孔をあけてから釘打ちしてください。（割れたまま施工すると踏み鳴りが生じる場合がありますので、充分ご注意してください）

■ 釘打ち部の下地合板上にネダボンを塗布し、雄実に38mm～50mm長さのﾌﾛｱｰ用ｽｸﾘｭｰﾈｲﾙを使用し、45度の角度で打ち付けてください。

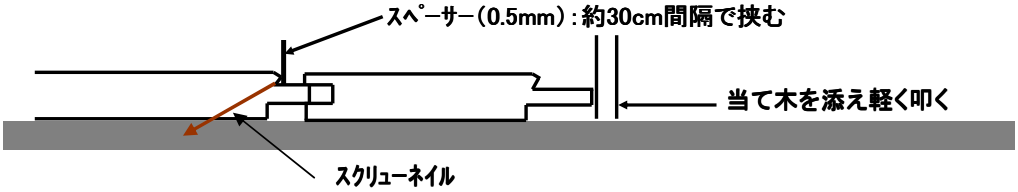
■ 釘頭はポンチで雄実を締め付けてください。



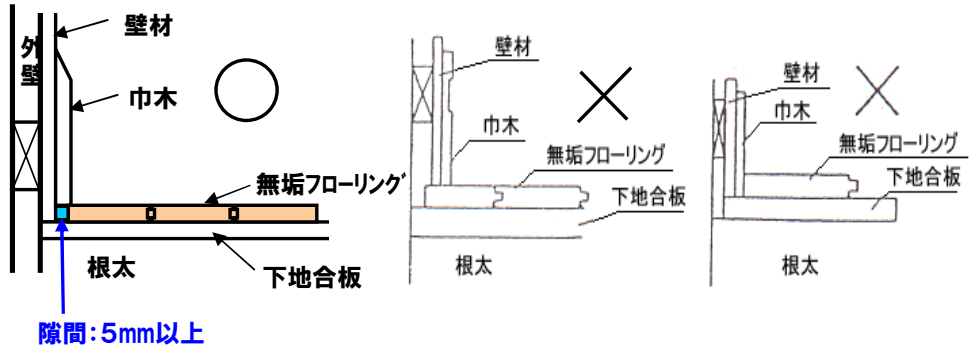
■ 無垢ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞの場合、樹種ごとの硬度も様々で、また、同一樹種でも硬さにﾊﾞﾗﾂｷがありますので、エアー圧の調整は充分に行ってください。

はめ込み

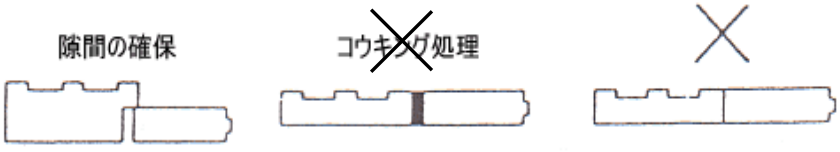
■ 実は強く叩き込みすぎないようしてください。膨張時の反りを防ぐため、名刺1～2枚程度の隙間を設けてください。



■ 壁際は突き付け施工はしないでください。必ず壁材から5mm以上の隙間を設けてください。



※ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞの膨張・収縮対策のため、固定部の納めも必ず隙間を設けてください。



■ 施工終了後は必ず養生してください。養生シート、弱粘着養生テープをご使用ください。

保管上のご注意

■ 水がかかりやすい箇所、湿気の強い箇所、直射日光の当たる場所での保管は避けてください。

■ 商品は傾けずに水平に保管してください。

無垢フローリングのお手入れ方法

《日常のお手入れ》

（１）床を拭く場合には乾いた雑巾で拭いてください。表面コーティングされておりますが、水拭きはお勧めできません。大きいゴミは一ヶ所に掃き寄せて掃除機等で吸い取ってください。

（２）板の隙間のゴミはほとんど掃除機などで取り除けます。粘土質の物が隙間に詰まった場合には爪楊枝等で取り除いてください。

《大掃除のお手入れ》

（１）掃除機を使用するか、固く絞った雑巾で拭いてください。それでも落ちない汚れがある場合には、中性洗剤を薄めた洗剤を雑巾に含ませ固く絞って拭いてください。

（２）最後に乾いた雑巾で乾拭きしてください。

《ワックスをかける場合》

ワックス掛けは３～６ヶ月に１回程度行うと美しさが長持ちします。使用するワックスは樹脂系木質床用ワックスをお使いください。その際、無垢フローリングに適しているワックスをご確認のうえ、詳細は各ワックスメーカーにお問合せください。
また、必ずワックスの『取扱説明書』をよく読み、使用上の注意事項を守ってください。
更に、塗装前には目立たない部分で試し塗りを行ってください。

（１）掃除機やモップでゴミや埃を取り除く。

（２）固く絞った雑巾で床全体を拭く。

（３）床が完全に乾いたことを確認し、各ワックスメーカーの使用方法に従って塗布する。一度に多量のワックスを塗布すると、溝部や連結サネ部にワックスがしみ込み、床材の反りや収縮の原因となります。薄く均一にワックスを塗布してください。

“やってはいけないこと”

★中性洗剤以外の洗剤は使わないでください。

★濡れたままの状態にしていると、床板は反ったり割れたりする原因になります。水がついたら直ぐに拭き取ってください。

★水を多く含んだモップや雑巾でのお手入れは厳禁です。

★薬品のついた化学モップ等で拭きますと変色の原因になりますので、ご使用は避けてください。